

## 令和3年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原北小学校	校長	石原 政信	生徒指導主事	松浦 翔
-----	------------	----	-------	--------	------

## 取組事例名 『クラス会議』

## 取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
コミュニケーション能力・共感力	2	課題発見・解決力・多様性に対する適応力	1	思考力・判断力・表現力・実践力	3

## 取組のねらい

自分たちの学級の課題を見つけ、改善に向けて議論し、実践し、振り返ることによって、自治的自立的な活動を行い、よりよい学級の風土を構築していく。

## 取組の具体的内容

## 取組の創意工夫

『キーワード 自治的・自律的』

クラス会議では、学級内のいろいろな課題に目を向け、学級全体で解決していくように仕向けていく。基本的な進め方は、以下のように行う。

- ① 輪になり、話し合いのルールを確認する。
- ② コンプリメントの交換をする。
- ③ 議題と提案理由の確認をする。
- ④ 議題に対する意見を出し合う。
- ⑤ それぞれの意見に対して、メリットやデメリットを挙げる。
- ⑥ 学級として解決策を決める。



クラス会議で決まったことは、1週間実践して、振り返りを行う。

なお、実践を行う前に、5つのステップを踏んで素地を養う。

- ① 輪になってコンプリメントを行う。
- ② 話し合うための約束事を決める。
- ③ 多様な見方・考え方をする。
- ④ブレインストーミングと問題解決の方法を学ぶ。
- ⑤ 学んだこと(①～④)を生かしてクラス会議を行う。

上越教育大学教職大学院の赤坂真二教授から取組について教えていただいた。実践前の5つのステップには、それぞれ意味があり、その本質を意識しながらクラス会議を行うようにしていくことが大切である。少しずつ児童に司会進行を任せるようにし、状況に応じて積極的に教師からの指導を入れる。(ファシリテーション)



『対等』、『ポジティブな感情』  
『傾聴』、『相手を傷つけない主張』  
『肯定的な面と否定的な面』、『長所』  
『やる気の出る解決』、『協力』  
『認め合う』、『他者への貢献』

## 取組の成果と課題

心理的尺度(社会性と情動(SEL)基礎的社会的能力, 社会的責任目標尺度, 自律的学習動機尺度)の経年比較をすると、主に6年生の結果が上昇傾向にあった。「対人関係」では+2.7, 「他者への気付き」では+2.0, 「共同体感覚」では+6.9と、それぞれ向上した。実践を積むことで、人の意見を肯定的に認める土壌や、自分たちで決めた規律を守ろうとする風土が身に付いていった。日常生活の中で見つけた課題を各学級に投げかけ、クラス会議を通して、全校児童の意識統一を図ることができた。

課題として、意見を出して選ばせるだけのクラス会議になってしまうことがある。その意見のメリットとデメリットを理解した上で、意見を収束させていくことがとても大切であるため、教職員が本質を理解してファシリテートしていく必要がある。